

第13回 東日本大震災アーカイブワークショップ議事要旨

日 時：令和2年12月23日（水）14：00～16：00

場 所：東北大学附属図書館 1号館2階大会議室およびWebex（Web会議）

出席者：岩手県立図書館（＊） 佐藤 奈津子

宮城県図書館（＊＊） 加藤 奈津江、日比 遼太

仙台市民図書館 榊 裕子、星 博之

岩手大学図書館 遠山 正宏

福島大学附属図書館 近 裕見子

国立国会図書館 相原 雅樹

防災科学技術研究所自然災害情報室 三浦 伸也、池田 千春

防災専門図書館（防災科学技術研究所客員研究員） 堀田 弥生

東北大学附属図書館 細川 聖二、真籠 元子、永澤 恵美、影山 啓太（事務局）

欠席者：福島県立図書館 佐藤 真理恵

凡 例：（＊）岩手大学図書館へ来訪によるWeb会議参加

（＊＊）東北大学附属図書館へ来訪によるWeb会議参加

配付資料：

資料1. 各機関の活動報告書 ー震災記録の収集を中心にー

資料2. 第13回東日本大震災アーカイブWS 資料

2-1. プレスリリース案

2-2. ポスター・チラシ案

2-3. 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン（仙台市）

2-4. 連絡先受付用紙案

2-5. 仙台会場レイアウト案

2-6. 公立学校における新型コロナウイルス感染症に係る連絡フロー（宮城県）

参考資料1. 第12回 東日本大震災アーカイブワークショップ議事要録・議事メモ

参考資料2. 第10回 被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会 ご案内

1. 開会

議事に先立ち、東北大学附属図書館総務課長の代理として、東北大学附属図書館情報管理課の真籠より挨拶があった。その後、出席者より自己紹介を行った。

2. 各機関からの活動報告

各機関より資料1に基づき、前回からの変更点・今年度の活動・特記事項を中心に報告

を行った。以下各館の事項は口頭説明の要点記載につき、詳細は資料 1 を参照のこと。

(1) 岩手県立図書館

- ・ 図書・雑誌・ちらしいずれも微増。
- ・ 岩手県立大学の事業に協力。震災資料提供やポータルを検証協力など。
- ・ 「東日本大震災情報ポータル」の見直し案作成。
- ・ 東日本震災津波伝承館との連携に向け打合せを実施。出張展示を計画中。
- ・ 震災から 10 年の企画展やミニ展示を実施予定。

(2) 宮城県図書館

- ・ 「東日本大震災文庫」の収集資料は昨年比で約 1,000 点増。例年に比べ多く収集できた。
- ・ 「東日本大震災アーカイブ宮城」の公開コンテンツ数は昨年より約 2,000 件増。
チームから班体制への移行により、専任担当も 5 名に増えたことが収集数及び公開コンテンツ数増加の一因である。
- ・ 「東日本大震災アーカイブ宮城」システム関連の業務も目途が立ち、人員増加も相まって資料整理・公開作業が大幅に進捗している。

(3) 仙台市民図書館

- ・ コロナ禍での閉館時に収集資料の確認を実施。ちらし類や機関誌などの整理体制に苦慮しており、各機関のノウハウを知りたい。
- ・ 2021 年 3 月開催の「仙台防災未来フォーラム 2021」（仙台国際センター）へのお出張展示を計画中。対象資料は市政だより掲載のコラム「3.11 震災文庫を読む」の紹介資料を中心としたい。

(4) 福島県立図書館（欠席につき、司会の東北大学永澤にて特記事項のみ代読）

- ・ 「震災復興ライブラリー増加資料一覧」「ブックガイド」作成。
- ・ 震災関連資料の企画展を開催予定。10 年イベントで作成の書棚ポスターおよび機関紹介ポスターもあわせて展示を予定している。
- ・ 東日本大震災・原子力災害伝承館との連携可能性について検討を開始。

(5) 岩手大学図書館

- ・ 登録資料は昨年度より微増。
- ・ OPAC 登録データの災害リポジトリへの取込が依然として進んでいない。

(6) 東北大学附属図書館

- ・ コロナ禍の影響で休館期間が多かったため、資料収集が進まなかった。

- ・「第9回 被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会」（神戸大学：2020年1月）に職員が参加。第10回も参加予定（参考資料2）。
- ・館内のミニ展示は、コロナ禍の影響で休止。
- ・2021年3月上旬～中旬に、館内で震災10年展示企画を実施予定。

（7）福島大学附属図書館

- ・収集資料は昨年度から約360点増。
- ・2021年3月に大学で震災10年イベントを実施予定につき、図書館でも企画検討中。

（8）国立国会図書館

- ・「ひなぎく」の検索対象メタデータ数は昨年より約17万件増。メタデータ連携機関数も4機関増え47機関となった。
- ・東北大学災害研と共催の「東日本大震災アーカイブシンポジウム」を2020年1月に実施。2021年1月にもオンラインにて実施予定。
- ・防災学習ワークショップを2月に盛岡市にて開催（後援：岩手県）。
- ・「防災推進国民大会2020」（10月にオンライン開催）にてポスター展示。
- ・閉鎖されるアーカイブからのデータ承継が課題。震災から10年の節目で閉鎖される事例が出てきている。現在各案件で調整中だが、来年度以降も増える予想。

（9）防災科学技術研究所自然災害情報室

- ・2020年の図書館総合展 ONLINE にて、防災に関するe-ラーニング風動画コンテンツ3編をYouTubeにて公開。
- ・図書館総合展事務局と共催で全国の災害アーカイブ図書館のWeb展示を実施。あわせて、パネルをマッピング表示するアプリを作成し公開。
- ・2021年の図書館総合展に向け、準備を進める予定。震災担当者インタビューについても、総合展のフォーラム内で使用予定。

（10）防災専門図書館

- ・コロナ禍の影響で、3月末から約3か月間来館サービスを停止。開館再開後も利用者は以前のように戻っていない。今後の企画もミニ展示などに留める予定。
- ・図書館紹介動画の作成や「防災推進国民大会2020」への参加、図書館総合展 ONLINE への出展。
- ・矢野司書が「第22回図書館サポートフォーラム賞」受賞。

3. 東日本大震災10年アーカイブイベント企画について

資料2（2-1～2-6）に基づき、東日本大震災10年アーカイブイベント企画について、

企画者である防災科学技術研究所（以下、防災科研）より企画案の説明及び議事進行がなされた。

資料 2-1～2-6 およびメール審議に基づき、下記のとおり検討がなされ承認された。

(1) 開催までの準備について【資料 2-1、2-2】

- ・イベントで展示する書棚ポスター画像の選定、および福島県立図書館での巡回展に展示するポスター1枚について、各機関 1月14日（木）までに防災科研へ提示する。
- ・震災前後の定点撮影写真のスライドショー投影について、定点撮影できない場合は、似た構図で震災前後が比較しやすい写真とする。
- ・各問合せ先は、イベント関連は会場である仙台市民図書館、「震災記録を図書館に」キャンペーン関連は東北大学附属図書館とする。
- ・ポスター案（資料 2-2）について、背景の書棚画像を薄くした修正案をベースとする。
- ・広報について、各機関にて適宜実施し、メーリングリスト（以下 ML）に報告する。
- ・マスコミへの広報について、開催時期が近づいてからの判断とする。
- ・延期となった場合の広報は各機関にて実施し、事実の簡潔な周知とする。

(2) 仙台でのイベント開催について【資料 2-3、2-4】

- ・開催要件については、仙台市策定のガイドライン（資料 2-3）に沿うこととする。
- ・会場館での打合せや管理担当者からの指示も踏まえ、受付時などの混雑緩和へ留意しつつ、運営側の設営・撤収担当者については記録する。会場に既設の感染防止対策の注意掲示も活用し、特に運営スタッフは、十分な感染防止対策を実施する。

(3) 仙台でのイベント開催準備について【資料 2-5】

- ・当初の会場案は、入場口が分かりづらいなどの指摘を受け、資料 2-5 案に修正した。
- ・在宮城県の図書館担当で 1月に会場下見を行う。
- ・会場既設の大型スクリーン活用を検討。詳細は仙台市民図書館が確認する。
- ・仙台市民図書館でアクリル板 2式を確保済み。案内・受付担当に優先して活用する。
- ・展示パネル掲示順については、各県にて調整済みにつき、案の通り確定とする。
- ・イベントの動画記録については、後日詳細な役割分担の協議時にあわせて決定する。
- ・意見箱・寄贈受付については設置および対応を不要とする。
- ・協議事項を受けて、会場案を適宜修正する。

(4) 新型コロナウイルス感染者が発生した場合の対応について【資料 2-6】

- ・参考として宮城県教育委員会の連絡フローを添付（資料 2-6）。
- ・会場館を主とした対応フローに沿って、感染が発生した場合には ML にて速やかな情報共有を行う。

(5) 福島県立図書館巡回展について

- ・本イベントと同様の書棚ポスター1枚を使用し、展示イベント終了当日に当日の会場スタッフで即時発送の必要がある。役割分担協議時にあわせて決定する。

(6) その他協議事項

- ・書棚ポスターについて、自館で印刷し現物送付する場合は、配布物と同じく2月24日(水)必着とする。
- ・各機関の配布物の内容や量に関する詳細リストの記録について、防災科研が取りまとめを行う。各機関のリスト提出は、1月14日(木)〆切とする。
- ・設営から撤収までのタイムスケジュールについて、1月の打合せで素案を出し、2月の直前打合せで最終決定する。適宜MLで相談する。
- ・企画のタイトルについて、「10万冊が語りかける～」で確定とする。

3. その他

- ・防災科研より、震災担当者インタビューについて、協力館すべてのインタビューが完了し、御礼の報告があった。
- ・防災科研より、震災から10年にあたり、各機関での記録誌刊行等の予定があれば刊行情報や資料リスト等についての情報提供依頼があった。
- ・事務局より、次回のイベントに関する1月の会場下見や2月の直前打合せの日程については、追って調整することです承された。

以上